

令和元年度第1回
県南西部地域医療構想調整会議

議事概要

日時：令和元年7月11日（木）

14:00～16:00

会場：備中保健所2階会議室

【議題1 岡山県地域医療構想調整会議の報告】

事務局から資料1により説明

<質問・意見>なし

【議題2 外来医療に係る医療提供体制の確保に関する協議の場について】

委員

外来医療機器の偏在、医師の偏在問題をこの会議で協議するということだが、厚生労働省の政策には矛盾があると思う。

新専門医制度では、都市部に住まないで専門医資格の取得が難しい。若い医師は専門医嗜好が強いので、交通の便がよく、大きな病院がある都市部に集中するのは当然で、そういうところが外来医療機能も充実する。外来医療、医師の偏在を助長するような政策をしながら、この会議でそれを調整するのは矛盾している。

それからこれは、自由開業性の制約になる。果たしてこの会議で協議をしてよいものかと思う。

医療推進課

診療科について制限をするつもりはない。付加機能を新たに開業する方に求めていく。外来医療計画でマッピング情報等を出すので自主的に見て、都市部ではなく、もう少し医療機関が少ないところで開業した方がいいと感じる方が出ることを期待しての計画だと認識している。開業制限を考えるつもりはない。

都市部に先生方が集中しているのは、やむを得ないものと考えている。産科等で都市部に集中している問題は指摘されており、今後どうするかは別の施策として考えていく必要がある。

議長

医師会と色々協議をして決めてもらいたい。

委員

新規開業者への外来医療機能情報の提供は、誰がいつの段階で行うのか。土地や建物を決めた段階で、ここは駄目だと言えないと思う。

医療推進課	<p>外来医療計画にマッピング情報を載せるとともに、県のホームページ等で医療機関の配置状況、外来クリニックの配置状況等の情報提供をする予定である。</p>
オブザーバー	<p>日本医師会は、自由開業性の規制に反対する。これはあり得ないだろう。外来医療機能の在宅医療や予防注射は、かかりつけ医制の充実を図ることによってカバーが出来るのではないか。日本医師会への加入者が少なくなっているので、積極的に入ってもらいたい。</p> <p>専門医制は、シーリングで専攻医の数を決めている。これが岡山県にとっては由々しき事態を生じる。岡山県内で専攻医として働く人の数が減ってくる。県医師会では、うまく調整がつくまでは延期を望む。うまく進めていかないと矛盾が先行してしまうので、我々も意見していきたい。</p>

【議題3 県南西部地域医療構想調整会議の進め方について】

事務局から資料3により説明

<質問・意見>なし

議長が今年度の県南西部地域医療構想調整会議の進め方について諮ったところ、異議はなく、合意、了承を得た。

【議題4 病床機能報告について】

委員	<p>気になるのが平成37年の必要病床数で、高度急性期が888床となっている。高度急性期は非常に高度な医療なので、診療圏は県南西部に限らず、日本全体、アジア全体に向けてやらないといけないと思う。県南西部圏域に限っての必要病床数だと思うが、違和感がある。</p>
委員（事務局）	<p>必要病床数は、医療機関所在地別で、他の圏域、他県から来る患者も含めて、平成25年度の実績をベースに推計したものである。例えばそれから何年かでもっと流入があれば変わってくるかもしれないが、県南西部圏域の住民だけを考えた数値ではないことはご理解いただきたい。</p>
委員	<p>必要病床数と病床稼働率との関係はどうか。</p>
委員（事務局）	<p>病床稼働率は病床機能報告から、病床数と1年間の患者数をもとに計算し、医療機能別の病床稼働率を資料にお示ししている。</p> <p>平成25年度の実績をもとに推計患者数を算出して、それを</p>

病床稼働率、高度急性期は0.75、急性期は0.78、回復期は0.9、慢性期は0.92で割り戻して必要病床数を推計している。

委員 必要病床数に病床稼働率は考慮されているのか。

委員（事務局） 参考値が考慮された値だと考えている。

【議題5 公的医療機関等2025プラン変更について】

（独）国立病院機構南岡山医療センターから資料5により説明
＜質問・意見＞なし

議長が（独）国立病院機構南岡山医療センターのプラン、2025年に向けた具体的対応方針について諮ったところ、異議はなく、合意、了承を得た。

【その他 二次医療圏流出入割合に係る分析について】

オブザーバー この統計は、中小企業が加入している健康保険のデータで、地域によって加入している医療保険制度の割合は違う。他のデータも含めて検討していくべきだと思う。

委員 協会けんぽは加入者の割合が約4割に過ぎないので、おっしゃるとおりでこれだけで議論はできない。他の国保等のデータも活用できればよいが、準備が出来ている協会けんぽの数字で説明した。

【その他】

委員（事務局） 先ほどの追加だが、必要病床数は国保も含めてナショナルデータベースが基本となるデータである。

県南西部圏域の特徴としては高度急性期は広島や香川からも来ており、慢性期、回復期は福山等に流出している。必要病床数を検討するときは、県同士の調整も行っているので、大きく急に流出や流入がないならば、ある程度の調整はされていることを改めて補足する。

オブザーバー 医師偏在に関することも大きな問題になっている。先ほど事務局から提案があったように、井笠地域と倉敷地域では状況が違うので、そこを議論する必要がある。

医師偏在指数で診療科の偏在はわかるのか。従来は人口10万対でみていたので一歩進んでいるかもしれないが、患者の疾病動向等は抜きに考えられている。恐らくそれぞれの地域における偏在指数として何を考えたらいいのかも含めて考えるように言われていると思うので、是非検討してほしい。

地元が感じている偏在の状況とこの偏在指数の乖離が明らかなので、アンケートをとり、探ってみたいと思う。地域ごとに考えていくという姿勢でやっていく必要がある。

オブザーバー

外来医療機能の現状と課題は、ある程度理解は出来る。岡山県外来医療に係る医療提供体制計画を策定していく中で、地域医療構想調整会議での協議を行うとあるが、協議をする意味が本当にあるのか。

外来医師の偏在抑制をしたいという国の方針なのか、医療推進課が診療科の制限はしないと書いていたが、それ以外に制限する項目があるのか。

実際に開業医は色々なサーベイをした上で、ここでこういう科でやりたいと決めていく。その時に色々な情報があるのは非常に助かる。それが公的などころから出てくるのは非常にいいことだと思うが、それを元にある意味での制限をかけると、色々な問題が出てくる。開業医は生活がかかっている。ここでなくてこっちでしなさいと言った時、そこで立ちいなくなったらどうするのかまで考えないといけない。開業は合目的性を考えた上で、自分の責任でやっていく。目的と責任の範囲を考えていくのがこの地域医療構想調整会議の本来の目的かどうか。計画の狙い、やりたいこともよく分かるが、この会議がどれだけ介入する意味があるのか。提言は出来ると思う。その程度かと思うがいかがか。

医療推進課

診療科の制限をかける予定はない。診療所の配置状況等を提示するので自主的に判断をいただくことが一番だが、付加的な機能については、この地域医療構想調整会議で求めていただきたい。求める機能として、初期救急、公衆衛生等について協議してほしい。診療規制、診療科の規制までは考えていない。

オブザーバー

本来やることは出来ない。医療推進課の役割ではないと思う。

医療推進課

元々、開業規制が憲法違反ではないかという議論があった。

オブザーバー

それはない、ということでよいか。

医療推進課	やらない。
オブザーバー	<p>やらないではなく、やれない。やるべきものでもないし、やる権利もないと思う。</p> <p>もう一つは、この調整会議で色々議論することは出来るが、それをどのような形で反映していくのか。提言することは出来るが、それ以外には？</p>
医療推進課	提言するところまでと考えている。
オブザーバー	提言する内容を我々が考えるということか。
医療推進課	はい。
委員（事務局）	<p>例えば井笠地域で学校医に困っていたり、介護認定で同じ先生が全部出て、診療を空けてやらないといけないという状況を聞いたことがある。二次医療圏全体では医師が足りていると思うが、逆に地域では公衆衛生的なところで医師が足りないという状況もあるかもしれない。地域を分けて課題を掘り起こしていく必要があると思い、分科会を提案した。</p>
委員	<p>民間病院の今後の地域医療構想の進め方で認識の共有をしたい。</p> <p>この会議の年間のスケジュールでは、まず量のはかり方を議論していく、公立病院の具体的対応方針を議論していく等の順番だと思う。県全体の調整会議では、民間の病院について具体的対応方針の作成方法を工夫する必要がある、もしくはまずは自主的な議論を尊重すべきではないかという話もある。</p> <p>公立病院と違って民間病院は個々の医療機関の経営の話もあり、なかなか性質が違って難しいところだと思うが、今時点でこの会議での民間病院の議論の進め方についてお聞きしたい。</p>
委員（事務局）	<p>基本的に民間の病院については、病床機能報告で各機能が充足されているかどうかと病床利用率等をお示しした。圏域の過不足は皆で共有する。あとは地域の外来機能なども見ていければ、住民に効率的でいい医療が提供できると考えている。マッピングなど、今ある情報を共有しながらやっていくことが大事だと思う。</p>